

魔女に託す（8）

光速に近い速度で十年間（十光年、地球上で一光年は九兆四千六百億キロメートルなので、その十倍。宇宙では近い距離だろう）旅をして地球に戻って来ると、光速の旅人はほぼ十年の歳を取っている。しかし家族や友人が百年以上の歳をとっているのに仰天する。こうした相対性理論を比喩したような昔話「浦島太郎」が十二、三世紀前の日本書紀や万葉集に残されているというのに驚く。

なお玉手箱とその煙で、開けてはならないという約束を反故にする罰の教えを付け足した。

さて、生命体の可能性が高いとされる地球に最も近い惑星は、以前にも触れたことがある恒星「プロキシマ・ケンタウリ」の惑星だが、生命体の存在は薄いと述べた。

期待の惑星

しかし落胆するにあらずで、

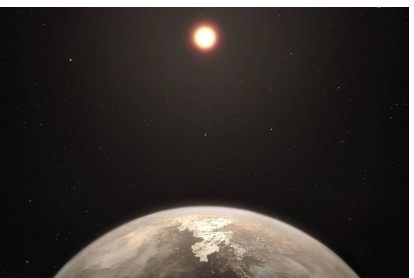
魔女は**天文学的発見**と云われる朗報を知った。

地球からの距離、光速で十一年（十一光年）のところに、大きさも宇宙環境も地球に似た惑星が発見されたのである。

おとめ座の方向にある小型の恒星「ロス128」の周りを約九ヶ月かけて周遊する惑星bである。生命生存可能領域（ハビタブルゾーン）があるという。

惑星bは、主星「ロス128」の活動が穏

※画像はザ・プラネタリ・ソサエティから引用（手前がb）



やかであるため、表面の大気や生命体に影響はさほどでないと推測され、期待が寄せられている。

果たして、生命体は存在するのだろうか。今後の観測結果が待たれる。

さらに時代は先に飛んで、四十光年遠方に、期待度の大きな惑星群が発見された。

「トラピスト1」と名付けられた赤色矮星を周回する惑星群で、地球とほぼ同じ大きさの惑星が7個もあり、内6個は地球と同じ岩石惑星。その6個はハビタブルゾーン内にあり、2025年9月に地球に似た大気を持つ1個に大きな期待が寄せられている。

（ここで後述する耳寄りな情報を地球から得たため、またの機会にしたい）

地球を救えるかも知れないという、ある情報が地球から届いた。

魔女は、地球からの知らせが誤報でも小躍りする気分で、はるかな宇宙を疾駆し、詳報を待った。

（続く）